

絵の身になって鑑賞しよう
— よーいアクション! —

竹内 利夫
(徳島県立近代美術館上席学芸員)

Gehrtz 三隅 友子
(徳島大学)

<内容>：美術鑑賞の新たな取り組み

美術鑑賞を言語ではなく、身体の動き（アクション）を使って表現する。

- ・言語優位でなく、自分なりのイメージを持てるようにする。
- ・身体で関わることにより、美術作品よりも学習者の存在感を際立たせる。

また学習者たちが交流しながら、個々の経験を活かし、主体的にイメージを持って自分らしい鑑賞活動の姿を獲得していくことを目指す。最終的に「絵に住む」、「絵の身になる」といった、主体的な美術作品との関わりを求めつつ、個々人が持つ多様な力を交流の中で活用し合う美術鑑賞学習を考えるものである。

<方法>：徳島県立近代美術館所蔵の作品（コピー等）を鑑賞。

アクションを考える→グループ練習→発表→感想（共有）→アンケート